

武田 利一様

2013.6.15

林 邦英

4月より豊明郵便局を働くことになり、新しい配達区域を少しずつですが学習しています。豊明市のことを少しでも知ろうと思い、6月2日に「桶狭間古戦場まつり」の見学に行ってきました。高德院雲上会場での芸能発表で、朝鮮中高級学校の中級部の生徒さんによる朝鮮民族舞踊と歌を見学することができました。アンジェラ・アキさんの「手紙 - 拝啓 十五の君へ」の歌を聞かせていただきありがとうございました。ありがとうございます。

反比例のグラフを書いてみました。

$$y = \frac{1}{x}$$

きれいに書くことはむつかしいなと、あらためて思いました。

グラフを書いて思い出すのは、デカルトさんのことだ。『数学物語』矢野健太郎著（角川ソフィア文庫）の「デカルト」の章は、「数と図形とを結びつけて」から始まっています。

中村幸四郎さんの書かれた「近代数学の歴史－微積分の形成をめぐって」（日本評論社 1980年9月）のP.49 - P.56には、「附録 歴史的に見た座標」がありますが、P.54「4. デカルト『幾何学』における座標」の部分、「実はデカルトはこのようにして当時存在した代数を超えて、一様次元の線分算ともいえるべき代数に到達したのだ。」の部分が大文字になっています。

『精神指導の規則』デカルト著、野田又夫訳（岩波文庫）P.116のP.121の「規則第十六」の部分の問題にしています。

P.118より「実をいうと私自身も、かかる名称に長い間あざむかれていた。」、大切な部分だと思えます。

反比例のグラフの観察は、数学にとって、大切なことを教えてくれます。

$y = x$  のグラフは、直線ですが、 $y = 1/x$  のグラフは曲線になります。

$(1, 1)$  を通り、 $y = x$  のグラフを軸にして、対称になります。

赤い部分の面積をめぐっては、「不思議な数  $e$  の物語」(岩波書店)に書かれています。

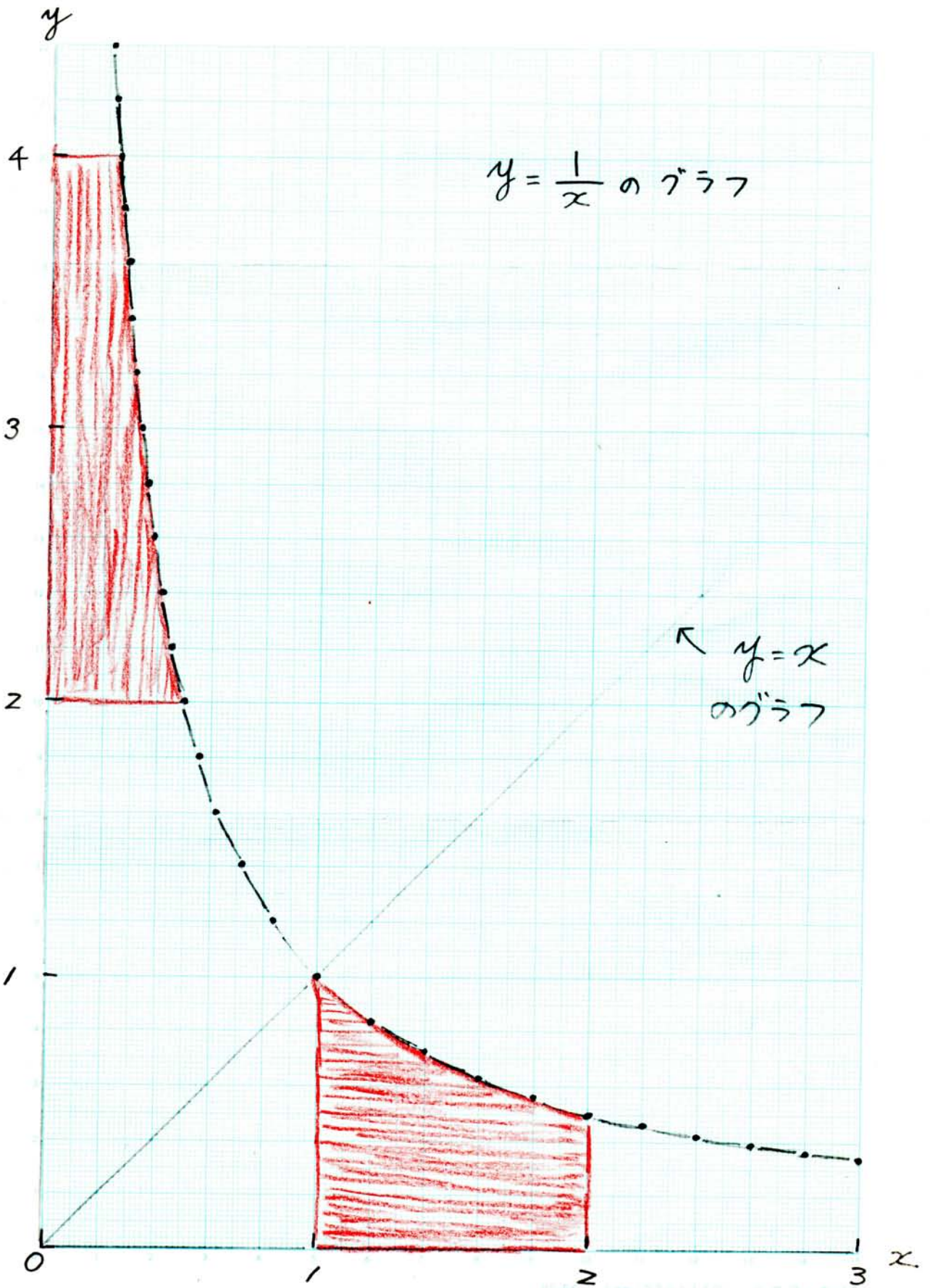
3次収束(ハレー法)は、反比例のグラフの曲線を利用するものでした。

$$\sqrt{N} \quad (N \text{ は } 1 \text{ の近く})$$

$$3 + \frac{-8}{N+3}$$

まとまらない内容でもうしわけありません。

暑くなります。お体に気をつけて下さい。



$y = \frac{1}{x}$  のグラフ

↖  $y = x$   
のグラフ